



みらいん

わかばやし

「みらいん」は、
震災からの復興に向けて
歩むまち・仙台の“ひと”と“地域”の
今を結ぶ情報紙です。



今月の
ひと

HOPE FOR
Project 代表

荒浜から思いを乗せて大空へ 三・一一風船プロジェクト

三月十一日、荒浜に集まった人々の手から色とりどりの風船が放たれました。企画したのは、荒浜小学校、七郷中学校のOB有志で立ち上げた団体「HOPE FOR Project」です。

団体をけん引する代表の高山智行さんは、震災直後、自宅が被災するという状況にありながら避難所を駆け回り、ツイッターで避難者の安否情報を発信。その後、流出写真の回収、洗浄などの活動を経て、現在は荒浜で企業再建に携わっています。一連の活動の中、さまざまな悲しい思いに触れたことから「悲しみを抱え暮らす方々に、少しでも穏やかな時間、大切な方へ思いをはせる時間を作りたい」と企画したのが、三月十一日に、荒浜の地から風船を飛ばすというプロジェクトでした。

昨年続き、二回目の開催となった今年。笑顔の人、涙を浮かべる人、手を合わせる人、それぞれがさまざまな思いで風船を見送る瞬間が見られました。夕方にはキャンドルの点灯も行い、明かりの消えた荒浜の一角を照らしました。

荒浜の方や仲間たちとともに、大好きなこの地でプロジェクトを続けていきたいと願う高山さんです。

2013
5月



株式会社ベジフル仙台(日辺)の場合

ハイテク野菜加工に主婦の手が一役 専務はシフトでやり繰りしています

新しい食品加工技術を用いたソフトスチーム野菜の加工工場が、株式会社ベジフル仙台です。専務の浅野昭男さんは「現在、約40名の女性が働いています。子育て中の方もいますので、希望の日に休めるようにしています。学校行事への参加などが大事ですからね」と語ります。



笑顔が一番のお化粧 笑いのたえない職場です

大内 恵美 さん 日辺グラウンド仮設住宅
高校生、中学生、小学生と3人の子どもを育てている大内恵美さんは「学校行事とか、自分の都合でお休みを取るのって、ちょっと気が引けますけど、この会社では、お休みにしてくれるんです」と、うれしそうに話します。
二木地区で4世代同居していた大内さんにとって、仮設での暮らしは息のつまる毎日でした。「仕事の内容は厳しいです。きちんとした作業が求められますから。でも、職場では、笑い声が絶えないんです。時には社長も一緒に作業をするんですよ」と、ほほ笑みました。



◀お子さんから届いた感謝のメッセージ
「ママ、うんでくれてありがとう」



成果の見える仕事が好き 働いている実感があるから

金野 真知子 さん 沖野の賃貸住宅
金野さんは、被災前に長年調理の仕事をしていた経験からこの仕事に応募しました。
「野菜って、それぞれに個性があるんです。キャベツだってニンジンだって、品種だけでなく、産地や生産者の違いが一つひとつの野菜に個性を与えているんですね。人間も一緒かな」と話す金野さんは、「この仕事が好き、努力した成果が目に見える仕事だから。従業員のことを親身になって考えてくれる職場だから、長く働きたいですね。皆そう思っていますよ」と、楽しそうに話してくれました。



▶キャリアの証し「調理師免許証」
今までもこれからも大事な資格です

私たちはここで 働いています。

職を求める人と、人を求める企業との関係
そんな当たり前の関係を大事にしたい
働き手は、希望する収入を、希望する時間を使って得たいと考えています。企業側も、希望する人材を、希望する給与で雇いたいと考えています。さまざまな職があり、その雇用形態も複雑な現代ですが、働き手と企業側の思いが一致した職場を訪ね、仮設住宅にお住まいの方が働く姿を紹介します。

鳴海屋紙商事株式会社(卸町二丁目)の場合

仙台夏の風物詩、七夕飾りの制作 130年の伝統を支える主婦の手

紙卸業の鳴海屋紙商事株式会社は、仙台七夕まつりの七夕飾りを制作しています。「和紙相手の手仕事ですから、熟練した職人さんのように誇りを持って取り組んでもらいたいです」と、同社七夕企画室の山村蘭子さんは、伝統の祭りを支える皆さんを励まします。



家族のために、自分のために、 そして、沢山の皆さんのために

大學 三保 さん JR南小泉アパート仮設住宅
大學三保さんは、2人の小学生を育てるお母さんです。「ほら、触ってみてください。和紙って1枚1枚違うんですよ」と差し出された数枚の和紙は、確かに厚さも柔らかさも違うものでした。「これをどうやって同じような飾りに仕上げるか、ここが難しいところです。裏方の仕事をしたので、この夏は七夕を見る目が変わると思います」と1年生の息子さんを見ながら話してくれました。この職場は、子ども連れ可能なため、乳児を連れてくるお母さんもいてにぎやかです。「ずっと、続けたい仕事ですね」と、前を見つめます。



◀毎日、片道20分の通勤は、この自転車です。「いつもありがとうございます」って思っています



誰でも出来る仕事ではないからこそ やりがいがあります

齋藤 志津子 さん 卸町五丁目公園仮設住宅
「とにかく、私はじっとしてられない性格なんです。齋藤志津子さんは、作業の手を止めずに話してくれました。
齋藤さんが七夕飾りをつくる仕事に就いたのは今年の11月からです。「最初につくった作品が東京ドームに飾られているのをネットで見た時は、感動しました。知らない誰かに見てもらえるのって、うれしいんですよ」と目を細めます。「最近、どんどん好きにつくって良いんだよって言われてます。任せられるって、責任感じちゃうけど、やりがいもありますね」と笑います。



▶愛犬のお散歩は、ほっと一息つける時。
ジェリーちゃんはずっかり家族の一員です

みらい編集部は、毎日読者の皆さんと一緒にさまざまな催しや出来事に参加し、取材しています。その一部をご紹介します。

● 4日(月) 思い出の写真さがし
(サンピア仙台)



写真洗浄ボランティア団体「おもいでかえる」の写真展示会では、写真と思い出の品が所狭しと並べられました。写真を見つけた方は、喜びと感謝の気持ちを存分に表現していました。

● 6日(水) 小さいながらも和気あいあい
(六丁の目中町西公園仮設住宅)



裁縫と折り紙でお茶会の中で、いつものメンバーが楽しく手仕事をしています。お茶やお菓子で、にぎやかなひと時をすごしました。

● 10日(日) 東六郷地区慰霊祭
(東六郷コミュニティセンター前)



「俱会一処」六郷町内会連合会会長の言葉から、俱に一つの場所で出会うということです。126名の犠牲者、一人ひとりの名前が読み上げられました。

● 11日(月) 東日本大震災 慰霊行事
(荒浜・井土)

東日本大震災から2年目のこの日、荒浜地区では午前中に祈りの塔と名付けられた観音像の開眼式、そして午後には三回忌の慰霊法要が執り行われ、14時46分の黙とうの後、献花が行われました。

同じころ井土の海楽寺では、門徒さんのほか、地区を離れた方なども含め60名が参列し犠牲者の追悼法要が行われました。

荒浜地区ではこの後、風船飛ばしが行われ、夕方には、キャンドルを並べてつくった、メッセージ「Thank you for all your help ARAHAMA」が灯され、震災復興支援への感謝の気持ちを表現しました。



● 13日(水) 荒浜の文化民俗
(仙台市歴史民俗資料館)



被災地関連展示「若林区荒浜の暮らし」を見学。漁の様子や盆正月の行事などが映像で紹介されていました。映像では見知ったお顔も何人か発見しちゃいました!

● 22日(金) おまわりさん ありがとう
(日辺グラウンド仮設住宅)



他都県から仙台南警察署特別警ら隊へ応援に来ていた警察官14名が、任務を終えて帰る日、感謝状を送りました。14名はそれぞれの思いを胸に、本来の勤務地へ帰っていきました。

● 23日(土) つくって食べようの会
(六郷市民センター)

小学生が、お母さんやお父さんに料理を振舞おう、と頑張りました。東六郷小学校5名、六郷小学校2名の小学生料理人が、東北大学の学生ボランティアの手を借りながら、ギョウザ、シュウマイ、春雨サラダ、卵スープ、ごはんをつくりました。「これは何?ラッキョウ」「ブーツ、ニンニクでした」「今日の目標は、ギョウザを180個、シュウマイを120個つくりまーす」



「包丁は気をつけて使いましょう。左手はネコの手のように丸めるんだよ」。時に真剣に、時にふざけながら、新しい体験に、元気いっぱい取り組んでいました。

読者からひとこと

● 景気がよくなっていくのは歓迎だけど、消費税が上がりそうだと不安です。建築資材も値上がりしているし、家を再建するまでの時間ももどかしいですね。
若林区/佐藤さん

● 三月十二日に二年越しの結婚式を挙げました。本当は震災翌日が予定日でした。つらいことも多いけど、娘の乙連(おとめ)が居てくれたからこそ、何とかしないと、と頑張ってます。式はにぎやかでしたよ。
宮城野区/鈴木淳さん

● バスの時刻表が新しくなったのね。そしたら仮設住宅のすぐ前にあったバス停が移動して、遠くにいったしまったのよ。なんでだろうね。私は車がないからバスで移動するしかないのに不便になっちゃって。震災から時間が過ぎると、いろんな事が不便になるのかな。
太白区/Sさん

まちの語り場

集団移転、単独移転、現地再建…。沿岸部にお住まいだった方は今、お住まいの再建に向けて地域ごとに話し合いを進めています。このコーナーでは、それぞれの団体に話し合われている内容についてお知らせします。

荒浜移転 まちづくり協議会

集団移転の早期実施と移転後の荒浜の地域コミュニティ再生を目的としています。

四月十四日(日) 平成二十五年定時総会

● 事業報告と事業計画案の説明

当日の様子



問い合わせ先
代表 末永薫 (問い合わせがある場合は直接定例会場においてください)
定例会
第2・4金曜日19:00~
サンピア2F 会議室4

サンピア仙台で開催された総会は約二百名の参加者のほか、県議会議員や市議会議員、仙台市職員が出席して行われました。末永会長「今後とも津波被災者への追加支援を要望していく」という挨拶に続いて、平成二十四年度の事業報告や平成二十五年度の事業計画案などが承認されました。また、市担当者から、集団移転先や復興公営住宅の情報提供がありました。

荒浜再生を願う会

荒浜に戻って生活再生を目指す住民有志が中心となって活動しています。

三月二十五日(月) 定例会

● 「荒浜フォーラム」について

当日の様子



問い合わせ先
代表 貴田喜一 090-8254-4270
定例会議
毎週月曜日19:00~
荒井小学校用地仮設住宅集会所

五月二十五日(土)二十六日(日)に開催する『荒浜フォーラム』の打ち合わせを支援者グループと行いました。二十五日は十五時から七郷市民センターでシンポジウムを行い、二十六日は九時半から同市民センターで活動報告やワークショップを行います。
作家の森まゆみさん、民俗研究家の結城登美雄さんらと交え、『里海、荒浜』の将来像を語りま。

明日の三本塚を考える会

東六郷地区における農地と宅地の一体的な整備や住民主体のまちづくりを目指しています。

三月二十二日(金) 荒谷地区への移転に関する説明会

● 移転プラン二例を説明

当日の様子



問い合わせ先
代表 小野吉信 090-3122-4843
会議、学習会は自由参加、随時開催

三本塚町内会に対して、仙台市から2つの移転プランを説明する会が開催されました。プランのうち、一案は農振農用地の除外手続きが不要ですが、道路面積が増えるため費用負担が大きいこと、二案はコンパクトで道路面積が少ないため費用負担は小さいものの、農振農用地の除外手続きが必要となり、住宅着工までの期間が長くなることなどが説明されました。

東六郷移転推進協議会

東六郷の浸水区域から六郷地区への集団移転に向けて活動しています。

四月七日(日) 定例会議

● 要望書に対する仙台市の回答
● 移転先土地売却価格の確定ほか

当日の様子



問い合わせ先
代表 落合義光 090-4882-3368
定例会議
随時開催
日辺グラウンド仮設住宅談話室

移転事業への支援拡充などを求め、仙台市に提出した要望書に対する回答が報告されました。概ね協力的な回答が得られたものの、公共施設整備助成に關してはさらに交渉を重ねていくことが確認されました。ほかに、移転先土地売却価格の確定、開発許可の手続き準備、空き区画が生じたことによる新規参加メンバーの募集について確認・話し合いが行われました。

※記載している内容は、各開催日現在での情報です。最新の情報については各団体へお問い合わせください



みやぎ生協の

「ふれあい喫茶」

「お水の量はこのぐらいかしらね？」さあ鉄板、温まったわよ！」エプロン姿の女性たちの楽しげな声が飛び交い、その雰囲気は、さながら調理実習です。

三月末、若林区蒲町のサンピア仙台であった「ふれあい喫茶」。この日はメーカー担当者を講師に迎えた「お好み焼き講座」がメインです。近隣の借り上げ民間賃貸住宅などで暮らす二十名と、ボランティア十名が一緒に約二時間、お好み焼きをほおばりながら穏やかなひと時を過ごしました。



参加者の間で給仕に動き回る高橋さん(中央)。「おいしい?」「また来てね」などと声を忘れません

舗の集会所で、それぞれ月一回程度のペースで開いています。スタッフは地元の生協組合員らのボランティア。基本はお茶やコーヒーと、おしゃべりを楽しむ場ですが、取材時のように料理や手芸品を一緒につくるなどの趣向もあります。

お茶と一緒に振舞われる菓子類は、全国各地にある生協からの支援品です。その多くは各地の「ご当地菓子」。そんなささやかな心遣いは、参加者にも好評です。

「被災地を訪れるだけが支援じゃありません。私たちの支援も、全国

からの支えで成り立っています」。みやぎ生協仙塩ボランティアセンター長の高橋朋子さんは「一人は万人のために、万人は一人のために」の理念を同じくする全国の同志に感謝します。

高橋さんには忘れられない思い出があります。震災後、ショックで声が出せなくなった女性がいました。ふれあい喫茶に参加し、皆と一緒にゆっくり歌を口ずさむ中で、自然と自分の声を取り戻したのです。「人と触れ合い、一緒に時間を過ごすことが人を癒す大きな力になるんだと再び



取材の日行っていたお好み焼きづくり。家事だと面倒に思えることも、仲間と一緒に楽しむに変わります

東日本大震災から二年。今、さまざまなかたちで支援が続いている方々がいまいます。地域に根づいて支援を続ける方々は、どんな思いで活動しているのでしょうか。情報ボランティア@仙台の大学生記者が取材しました。

確認しました。規模は小さくても今後でもできる限り、ふれあい喫茶を続けていきたいと思っています。ふれあい喫茶では震災後、連絡が途絶えてしまった人同士が再会を果たすことも多いといわれています。「また会えて良かった!」。地道な場づくりは、つながりの再生にも一役買っています。

ふれあい喫茶 5月開催日程 申込不要、参加無料

- ◆15日(水) 若林区/みやぎ生協六丁の目店店内 太白区/NTT八木山南社宅集会所
 - ◆16日(木) 太白区/NTT八木山南社宅集会所 (ミニトマトの上手な育て方)
 - ◆21日(火) 青葉区/みやぎ生協八幡町店集会所
 - ◆21日(火) 若林区/JR南小泉アパート仮設住宅集会所
 - ◆21日(火) 太白区/NTT三神峯社宅集会所 (紙粘土のうさぎづくり)
 - ◆22日(水) 宮城野区/扇町1丁目公園仮設住宅集会所
 - ◆24日(金) 太白区/あすと長町仮設住宅集会所
 - ◆25日(土) 泉区/NTT鶴が丘社宅集会所 (キャンディボックスづくり)
- 時間/各日 10:30~12:00(24日のみ 10:30~11:30)
 問/みやぎ生協仙塩ボランティアセンター
 022-218-3880(平日9:30~18:00、祝日を除く)
<http://www.miyagi.coop/support/shien/volunteer/>
 ※開催日程は、1~2週間前からホームページや各会場のちらし・ポスターで告知

取材：梅村雅@東北学院大学
 情報ボランティア@仙台 ブログでも発信中です。
 「心落ち着ける場 みやぎ生協の「ふれあい喫茶」」<http://flat.kahoku.co.jp/u/volunteer16/> より (地域SNS「ふらっと」ブログ)

情報 掲 示 板

仮設住宅やご近所で開催される催し物や相談会、支援団体による支援情報などを紹介します。

荒浜フォーラムを開催します

荒浜の復興について考えるフォーラムを開催します。作家や民俗研究家の講話、荒浜の復興を考えるシンポジウム、荒浜再生の活動計画を考えるワークショップなどを2日間にかけて行います。申込不要、参加無料。

- 対象 どなたでも参加できます
- 時 5月25日(土)15:00~18:00、5月26日(日)9:30~16:00
- 場所 七郷市民センター
- 内容 森まゆみ氏(作家)、結城登美雄氏(民俗研究家)、室崎益輝氏(災害復興学会特別顧問)の講話、シンポジウム、ワークショップなど
- 問 070-5059-9869(庄子)

農作業してみたい方を募集しています

農業・人・生物多様性をテーマに活動しているNPO「こよみのあしおと」では、月1~2回、農作業イベントを開催しています。収穫や草取りなど、太陽の光を浴びて土に触れる体験を一緒にしてみませんか。

- 対象 どなたでも参加できます
- 時 月1~2回程度、日帰り
- 場所 若林区日辺の畑が中心
- 費用 年会費500円(ボランティア保険300円、運営費200円)。畑までの交通費や昼食は自己負担
- ※イベントは畑に現地集合となります。移動手段がない場合は他の参加者の方と調整しますのでお申し出ください。都合がつかない場合はご了承ください
- 申・問 こよみのあしおと(久保田)e-mail koyominoashioto@gmail.com
080-6027-7836(18:00~) <http://ktmhp.com/hp/koyominoashioto/>



織部流震災復興仙台茶会

この茶会は、実際に被災された方々も一緒にお茶を喫することで気分転換をしてほしいという思いで企画されました。大年寺山の風流な茶室でお茶を味わってください。申込不要。

- 対象 どなたでも参加できます
- 時 5月25日(土)午後、5月26日(日)午前
- 場所 茂ヶ崎庵(太白区茂ヶ崎3-10-20)
- 主催 綾部流山形支部
- 問 023-623-1072 織部流山形支部(蜂谷)

支えあいセンターからのお知らせ

借り上げ民間賃貸住宅(以下、みなし仮設)にお住まいの方を支援する支えあいセンター主催の、おすすめサロン・イベント情報です。すべて参加無料。

サロン・イベント名	対象	時	時間	会場	内容	申込	問い合わせ
第3回ヤマモト元気会	山元町から避難され主に太白区内のみなし仮設にお住まいの方	5月11日(土)	10:00~12:00	太白区中央市民センター	同郷茶話会	要 (電話か返信はかき)	支えあいセンター たいはく 022-217-7234
まざらいん若林愛・違いサロン	若林区のみなし仮設にお住まいの方	5月15日(水)	10:00~12:00	若林市民センター	歌と踊りのさわやか演奏会	要 (返信はかき)	支えあいセンター わかばやし 022-781-0559
らくらくリフレッシュ inみやぎの	宮城野区中央市民センター周辺のみなし仮設にお住まいの方	5月15日(水)	10:00~12:00	宮城野区中央市民センター	自宅でできるストレッチ、筋トレなどの軽運動	要 (電話)	支えあいセンター みやぎの 022-292-0990
体を動かそう(健康体操)	泉区のみなし仮設にお住まいの方	5月17日(金)	10:00~12:00	泉区中央市民センター	泉中央地域包括支援センターの方と一緒に健康体操	不要	支えあいセンター いずみ 022-772-5755
福沢サロン	五城中学校区にお住まいの方	5月28日(火)	13:00~15:00	福沢市民センター	介護予防健康運動、お茶飲み交流会	要 (電話)	支えあいセンター あおば 022-217-7234

※その他の交流サロンについては、支えあいセンターからのダイレクトメールでご確認ください

健康相談などのお知らせ

電話：022-282-1111(若林区家庭健康課・障害高齢課)

相談名	時	時間	会場	内容	担当	問い合わせ
母と子の健康相談	5月10日(金)	9:30~10:30	六郷保健センター	育児の心配や母と子の健康についての相談	保健師・栄養士	家庭健康課 内線6772
	5月14日(火)	9:30~10:30	七郷保健センター			
	5月31日(金)	13:30~14:30	若林区役所3階			
子どものこころの相談室	5月28日(火)	午後・予約制	若林区役所3階	震災後の子どものこころの健康に関する相談(要予約)	臨床心理士	
健康づくり講話 健康づくり相談	5月22日(水)	13:30~14:30 14:30~15:30	若林区役所3階	肺の生活習慣病(COPD)~あなたの肺年齢は何歳?~健康相談	結核予防会宮城県支部 保健師、栄養士、歯科衛生士	家庭健康課 内線6785
こころの健康相談	5月13日(月) 5月16日(木) 5月24日(金)★	13:30~16:30 ★の日は 9:00~12:00	若林区役所3階	こころの健康に関する相談(要予約)	精神科医師、精神保健福祉相談員、保健師など	障害高齢課 内線6752
震災こころの相談	随時(土日祝日除く)	8:30~17:00	若林区役所1階 窓口など	震災によるストレスやこころの相談		
高齢者総合相談	随時(土日祝日除く)	8:30~17:00	若林区役所1階 窓口	高齢者の健康や介護・福祉の相談	保健師など	障害高齢課 内線6307
認知症高齢者の家族交流会	5月24日(金)	13:30~15:00	若林区役所3階 健康教育室	認知症の方を介護している家族の交流会	保健師など	

（公財）仙台市健康福祉事業団 健康増進センター
健康増進課長 入江 徳子

さあ、動きましょう

爽やかな風が街を吹きぬけるこの季節、からだを動かすことの大好きな私は、まわりの方に「さあ、動きましょう」と声をかけるのですが、「苦手」「嫌いだから」と答えが返ってくるのがあります。人には得手不得手や好き嫌いがあるので、それも仕方ないことです。

動物である私たち人間は、動くことだから機能が維持されているのですが、何かの理由でこれまでの『動くこと』が制限された場合にはどうしたらよいのでしょうか。

例えば、病氣や怪我の時、「安静にしてください」と言われれば、安静を保つよう努めます。これは、治療や回復のために必要なことです。同時にこの安静な状況は、からだにとって従前の生活とは違って『動かないこと』が続くために、より大切な機能を失いかねない状況でもあります。この状況を可能な限り短くとどめるには、『動かないこと』の危険を知り、必要以上に安静や大事を取りすぎないことが大切です。

動くところは動かし、出来る事は自分でする、そして、普段から趣味など動く機会を創り出すことも、健康的な生活をするために、とても大切です。

入江徳子（いりえ のりこ）

健康運動指導士として震災後、避難所や仮設住宅集会所で指導を行っている健康増進センターのリーダー的存在

クロスワードパズル

出題 石田竹久

こたえ A B C D E F

1		2	3		4	5
		6		7		
8	9		F	10		
			11			
12		13			14	
		15		16	A	
17				18		
E				C		

タテのカギ

- 5月18～19日に開かれる仙台・青葉まつり。今年の〇〇〇は「明日への力を百万人の情熱祭」
- 「悪徳」の反対語
- 仙台市の気候の特色のひとつに、〇〇の発生が挙げられます。年に20～30回と、政令指定都市の中でも群を抜いた多さです
- 青葉まつりのゆるキャラ、青葉〇〇〇〇〇
- おじいさん。また、老人の尊敬語
- 木材を何本も並べて結び止め、水に浮かべたもの
- 雲の切れ目に見える青空
- 「〇〇〇、礼、着席」
- 俗に、年輩の男性が放つ、時代遅れのダジャレなどは〇〇〇ギャグ
- 建設中の地下鉄東西線は、動物公園駅（仮称）から〇〇〇駅（仮称）を結ぶ予定
- 魚をおろしたり骨を切ったりするのに使う、〇〇包丁

ヨコのカギ

- 市に保険料や住民税などを納める方法のひとつで、給与などから引かれる方式
- 6月末まで、仙台市内の複数のミュージアムを周遊できる、「ミュー〇〇」が発売されています
- 3人組
- カラオケ好きが離さないものといえば？
- 洋服に対する和服
- 5月10～25日、岩沼市の金蛇山神社で〇〇まつりが開かれます
- 京の〇〇〇〇、大阪の食い倒れ
- 春が過ぎると梅雨の季節。梅雨入りに対して、梅雨が終わるのは梅雨〇〇
- 50年に一度の〇〇〇〇の本尊御開帳に合わせたイベント列車が、仙台・山形間を運行
- 気仙沼市の徳仙丈山が名所。5月から6月に見頃を迎えます
- 自転車シェアリングが仙台市で実現しました。その名も「ダテ〇〇〇」

前回のこたえ

ユキドケ

でした。

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20

編集後記

震災が起きる以前から、地域福祉、見回り支援、という言葉はありました。ある仮設住宅のYさんは毎朝広い敷地内を隅々まで歩き、一人暮らしのお宅を見回っています。誰に頼まれたのでもなく。（きうち）

皆さん楽しい連休を過ごしましたか？ 私がこの文章を書いているのはゴールデンウィーク目前。色々な予定を妄想しつつ、財布とにらめっこ、落胆…。そして原稿の締切と戦っています。（佐藤）

お住まいを移転される方へ

お住まいを移転されると、移転先に「みらいん」が届かなくなる可能性があります。引越し後も引き続き購読を希望される方は、編集部までご一報ください。

宛先：〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12 「みらいん」編集部
TEL：022-390-5755
FAX：022-390-5756 e-mail：kawara@mmmm.or.jp